

世界気象デー（2025年3月23日）

～2025年のテーマは「力を合わせて早期警戒のギャップを埋めよう」～

“Closing the Early Warning Gap Together”



世界気象デー2025 のバナー
（出典：WMO 特設ページ）

世界気象機関（WMO）は、1950年（昭和25年）3月23日に世界気象機関条約が発効したことを記念して3月23日を「世界気象デー」としており、毎年、気象業務への国際的な理解促進のためのキャンペーンを行っています。今年のテーマは「力を合わせて早期警戒のギャップを埋めよう」で、WMOでは、3月24日（月）

にスイス・ジュネーブの本部で記念セレモニーを開催する予定です（詳細はWMO特設ページ参照）。

気候変動により気象災害が激甚化する中、気候変動適応策の一つとして世界的に「防災」の重要性が高まっています。一方、開発途上国を中心に、警報を含む気象防災情報が必ずしも有効に活用されていない、その提供自体ができていないという状況を踏まえ、2022年（令和4年）にグテーレス国連事務総長の主導により、「国連早期警戒イニシアティブ『全ての人々に早期警戒を』（Early Warnings for All (EW4All)）」が立ち上げられました。

本イニシアティブは、2027年（令和9年）までの5年間で世界中の人々が早期警戒システムにアクセスできることを目指し、開発途上国等の早期警戒システム構築を推進するものです。ここでいう「早期警戒システム」とは、警報等の防災気象情報を提供する仕組みのことで、WMOは気象の「観測と予報」に関する活動をリードする役割を担っており、開発途上国に対する技術的な支援や人材育成を通じて、早期警戒システムを構築しそれが人々に届くことを妨げている様々な課題や障壁（“ギャップ”）を埋めるための活動を行っています。

なお、我が国は、WMOに1953年（昭和28年）に加盟しました。現在、気象庁は、気象衛星ひまわりの運用や、観測、通信、熱帯低気圧、気候等の様々な分野のWMOの地区センターを運用し、各国の気象業務を支援するための情報提供、技術協力等を行っています。アジア地区の主要な国家気象機関のひとつとして、これらの活動等を通じて、EW4Allの実現に向け引き続き国際貢献を行ってまいります。

ソーシャルメディアで世界気象デーを話題にする場合、ハッシュタグ「#WorldMetDay」をご利用ください。

- ・ WMO 特設ページ（英語）：

<https://wmo.int/site/world-meteorological-day-2025>

- ・ 気象庁特設ページ（日本語）：

https://www.jma.go.jp/jma/kokusai/kokusai_wmd.html

（2025 年 3 月 18 日 気象庁）

【世界気象機関（WMO）特設ページ（英語）のメッセージの仮訳】

「力を合わせて早期警戒のギャップを埋めよう」

最近、WMO は 2024 年が記録上最も暑い年であったことを確認しました。私たちを取り巻く環境の変化は、異常気象を増加させています。急速に発達する熱帯低気圧、甚大な被害をもたらす大雨、高潮、洪水、致命的な干ばつ、山火事が増加しています。海面は上昇し、人口密度の高い沿岸地域は浸水や波浪の影響にさらされています。これらの現象による社会的影響は、ニュースで大きく取り上げられなくても長く続くのです。

「すべての人に早期警報を」イニシアティブは中間地点に達し、人々の生命を救い生活を守るとともに、地域の強靱化という点で著しい発展が見られます。気候リスクが増大するにつれて、このイニシアティブの緊急性は高まっています。

このイニシアティブが次の段階に入るにつれて、発展を加速させるためにパートナーシップが拡大しています。二国間及び多国間のドナー、気候基金、開発銀行との協力によって、早期警戒の取組への支援が増加しています。地区のパートナーや地区特別センターは、その効果を高めるとともに持続する能力を構築するために活用されています。国のオーナーシップが引き続きこのイニシアティブの中心であり、各国政府、特に国家気象水文機関（NMHS）は、国家の強靱性を高めるとともに、持続可能な早期警戒システムを確立するための取組を主導しています。

「すべての人に早期警報を」イニシアティブについて：
<https://earlywarningsforall.org/site/early-warnings-all>

数字は語る

このイニシアティブの中間地点にあります。私たちは人々の生命を救い生活を守るとともに、国や地域の強靱化において力強く前進しています。

55%

2024 年時点で、108 カ国がマルチハザードの早期警戒システムのためのある程度の能力を有していると報告しており、これは 2015 年の 52 カ国の 2 倍以上となっています。

出典：<https://wmo.int/publication-series/global-status-of-multi-hazard-early-warning-systems-2024>

脆弱な国の発展

最も顕著な改善を見せているのは後発開発途上国（LDC）であり、内陸開発途上国（LLDC）や小島嶼開発途上国（SIDS）も世界の伸び率を上回っている。

出典：<https://wmo.int/publication-series/global-status-of-multi-hazard-early-warning-systems-2024>

+39%

マルチハザード早期警戒システムの網羅性に関する世界平均スコアは、0.35 から 0.49 へと 39%上昇しました。

出典：<https://wmo.int/publication-series/global-status-of-multi-hazard-early-warning-systems-2024>

今こそ行動を起こす時です。力を合わせて早期警戒のギャップを埋めることで、より安全で強靱な世界を作ることができるのです。

政府が先導しなければならない

官民の協力には、大小問わず幅広い民間部門の関係者が連携する機会があり、「すべての人々に早期警戒を」イニシアティブにとって大きな可能性を秘めています。政府機関、特に国家気象水文機関は、引き続き権威ある警報の発信源であり続けなければならない一方で、民間部門との協力は、技術革新の推進、情報拡散の強化、災害リスクの知識の深化に役立ちます。

AI を活用した予測ツールから強化された通信システムまで、企業は貴重な専門知識とリソースを提供することができます。老舗企業であれ地元企業であれ、民間部門はリスク管理、資産の保護、業務の最適化、長期的な強靱性の確保のための気象・気候情報の活用に関心を持っています。

官民の利害関係者が協働することで、地域社会を守り、企業を強靱化させる、より包括的で強靱な早期警戒システムを構築することができるのです。

早期警戒システムへの企業の連携を促す

世界経済フォーラム（WEF）と世界気象機関（WMO）がオーストラリア国立大学と共同で発行したこの白書は、異常気象の影響を軽減するために世界的な早期警戒システム（EWS）を強化する上での企業の重要な役割に焦点を当てています。

<https://wmo.int/publication-series/catalysing-business-engagement-early-warning->

テントを広げる：「すべての人々に早期警戒を」の拡大

2027年の目標を見据え、「すべての人々に早期警戒を」イニシアティブの次の段階では、効果を増大させるため、以下の迅速かつ包括的で合理化された行動に重点的に取り組めます：

- イニシアティブの実行を改善するとともに加速化させるために開発されたツールや得られた教訓に基づき構築する。
- 当初の重点対象国 30 カ国以外にも支援を拡大する。
- リソースと協力を高めるために、二国間及び多国間のドナー、開発銀行、気候基金とのパートナーシップを強化する。
- 持続的な効果を確保するため、地区特別センターや地区のパートナーとの協力を通じて地域の能力を強化する。
- 各国をイニシアティブの実施の最前線に置くとともに、長期的な持続可能性を確保することで国のオーナーシップを促進する。

私たちは、力を合わせて早期警戒に関する資金ギャップを埋め、すべての国が強靱性を構築し、増大する異常気象や気候変動の影響から地域社会を守るために必要なリソースを確保できるようにします。

地球システム科学：早期警戒の基盤

WMO は 75 年以上にわたり、地球システム科学（気象、気候、水、環境をつなぐ統合的なアプローチ）で世界をリードしてきました。これらの複雑な相互作用を理解して、予測することは、効果的な早期警戒システムを構築する上で極めて重要です。

予測能力は大きく進歩しましたが、観測ネットワーク、予測精度、そして高品質な気候・水文データへのアクセスには依然としてギャップがあります。開発途上国の国家気象水文機関（NMHS）の強化は、気候変動への適応にとって不可欠であるだけでなく、世界的な強靱性、安全保障、経済の安定にとっても不可欠です。

気象・気候・水に関する国連の専門機関として、WMO は 193 の国と地域のネットワークを通じたパートナーシップの力を活用し続けています。今こそ行動を起こす時です。私たちが力を合わせて早期警戒のギャップを埋めることで、より安全で強靱な世界を築くことができます。